北海道立北見北斗高等学校ー同窓会会報誌 Vol.7

東京とどの実

北海道廳立野付牛中学校
北海道廳立北見中学校
北海道立北見高等学校
北海道立北見北斗高等学校

（発行）
東京とどの実会事務局
〒130-0022
東京都墨田区江東橋2-14-7
（錦糸町サンライズビル7F）
株式会社トラストプランニング内
Tel 03(5625)2371
Fax 03(5625)2372

平成17年11月18日（金）講演「ようこそ先輩」で

テーマ

「一生懸命走ったスポーツ人生、走れ、頑張れ、北斗健児」と母校の全生徒に宮井国夫さん（27期）が熱いメッセージ

孫ほど年の離れた全校生徒750人に「人生、元気があれば失敗しても何度でもやり直しができる。絶対にくじけちゃだめだ。そして感謝の気持ちを常に忘れるな。じいさんからのメッセージと思って頭のすみに置いていて。」

生徒は宮井さんの素直な物言いと豪快な語り口に次第に引き込まれ、最後は北斗高校全生徒のIdentifyのため肩を組み大声で歌おう、と「今日の日はさようなら」と「応援歌NO.1」を歌いました。

〈宮井さん経歴〉
置戸出身
北見北斗高校（昭和26年度ラクビー部主将、全国大会準優勝）
明治大学（大学ラクビー全国制覇・全国陸上競技100m10秒6で2位）
旧八幡製鉄所（社会人大会優勝6回、日本代表キャップ11）

http://www.kitamihokuto.hokkaido-c.ed.jp

平成16年11月19日（金）講演「ようこそ先輩」で

テーマ

「どうして私が絵本作家になったか」と母校の全生徒に長谷川知子さん（40期）が熱いメッセージ

一昨年の初め、高校時代の同級生で道副知事をされた佐々木亮子さんから「次の『ようこそ先輩』に推薦しておきました」とお手紙を頂いた。

第一回目の「ようこそ先輩」は佐々木さんだった。もしそれが実現したら、どんなにステキかと思っていた。北斗から正式にオファをいただいたときは、ほんとうにうれしかった。

私は、勉強もあまり出来なかったし、何をやっても不器用で、あきっぽい、いじけトンボの子どもだったが、絵を描くことが好きだったので、大きくなったら美大に行って絵描きになりたいと思っていた。けれど、美術の短大を出ても、ほんとうに自分のやりたいことは見つからず、いくつも仕事を転々とし、親を困惑させた。その途中に一年間の北斗での美術講師の時代がある。そして子どもの本に絵を描く仕事と出会って、絵本の絵描きになった。

私は自分に才能があると思ったことはないが、不器用でも、何でも、ほんとうになりたいものに向かって、求めていけば、いつか思いは叶うのではないか、そんな話しが出来たらいいと思った。

いざ当日になって、700人もの若き後輩の真摯な視線に迎えられて、高い壇上に上がったとたん、私もすっかり上がってしまい、どんな話しをしたのか、ひっちゃかめっちゃか。「私はどうして絵本作家になったか」なんて、えっらそうなテーマ。生徒たちの前で、えらそうに話したのではないかと今思い出しても、冷や汗が出る。

講演の後、二年生の男子生徒さんから「長谷川さんのように自分のことを生き生きと語れる大人になりたい」とお礼のことばを受けて、感激だった。いい時間を頂いて、感謝しています。その時の様子は、北見北斗高校の公式HPに写真と一緒に紹介されています。

私は、これからも、ずっと元気に絵を描いていきたい。

「東京とどの実会」55周年の集い

2005年6月11日（土） 於/グランドアーク半蔵門

第55回東京とどの実会の集いは、晴れの天候に恵まれ、橋本校長も参加した"ミニ強行遠足"から幕を開けました。「母校を同じくするという絆と安心感をベースに、世代を超えた交流の場として、くつろぎの笑顔で彩りを添えてください。」と1,450名の会員に呼びかけたところ、440名の同窓生より返事があり、132名が集いました。

宮井会長の挨拶

「年に一度の母校と故郷を同じくする太い絆で結ばれた校友の皆様お元気にご出席下さりありがとうございます。終戦後、浅草や新宿で同窓生の消息を思い、酒を酌み交わしたのがこの会の始まりで、本年が節目の55回目でございますので、現校長、39期生の橋本定彦さんをお招きしました。後程母校の近況報告を含めてご挨拶をお願いします。」

続けて「私は、皆様のご支援とご協力と沢山の方に助けていただき2期4年と、その前桂会長の元で11年間事務局を務めて参りましたが辞めさせていただき、後は、会に精通し新しい視点でリードできる現幹事長の半田護さんをご推薦申し上げ、合わせて別紙の皆さんに幹事をお願いすることにいたしました。」

受付風景（新しい試みとして名札を首から赤・黒・黄の紐で吊り、テーブルを前・中・後で囲んでもらい世代を超えて会話をしてもらうようにしました。）

司会の47期西村文江さん（中）

42期沢田亜矢子さんを囲んで、桂名誉会長（左）と宮井会長

豪華な食事と談笑

ミニ強行遠足（参加者と参加賞授与風景）

記念撮影（熟年と若人の二葉）

編集部 後記

北見市も北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町と3月5日に合併し人口127,628人面積全国4位、新市長神田孝次さんも決まり新しい出発を始めました。また北海道北見北斗高等学校も橋本校長から金山新校長に替わり4月10日新入生240名を迎え新しい出発です。そして東京とどの実会も半田会長の下、新しい出発をしなければなりません。事情により"集い"の会場は池袋のホテルメトロポリタンに替わりましたが、これまで以上に"世代を超えて集える場"を合言葉にし、新しい企画も入れ歩み続けます。
よろしくお願いします。

ゴルフ愛好家へのお知らせ

"北見地方の関係者"のゴルフ会があります、30年以上前から続いていて、今年150回を迎える伝統あるゴルフ会です。年々参加者が減少しており、新しい仲間を募集しております、第149回は"相模原GC"で6月15日（木）に決定！第150回記念大会は10月"霞ヶ関CC"を予定しています。ご希望の方はご連絡下さい、案内を差し上げます。

”宮川　泰先輩を悼む“

27期　宮井国夫

24期生、作曲家宮川泰さんは3月21日急逝され、25日青山でしめやかに葬儀が行われた。遠藤実作曲家協会会長、服部克久さんらが友人として弔辞を”面倒見のよい宮ちゃん、少し早く住所を変更しただけ、もう少ししたらそちらに行くから、次の日からの仕事を用意しておいてくれ”との心のこもった友人のお別れの言葉も面白いものでした。

東京とどの実会総会で、ピアノ演奏や、たのしい話をしていただき、母校でも弾き語り、吹奏楽部を指導しました。

桂名誉会長と参列し、宇宙戦艦ヤマトのテーマ曲と吹奏楽団で出棺まで見送って参りました。

同期生の桂さんから①お父さんの仕事の関係で転校が多く北見中学では2年ほど在学し寄宿舎（現野球バックネットのところ）に居り絵の素養があると高橋アゴ先生に誉められた。②大坂の大学に在学中から音楽活動して作曲家・編曲家としてたくさんのヒット曲を作った。③もうNHK紅白歌合戦の最後の蛍の光の指揮も見られなくなる。④とても照れ屋で本当の音楽プロだった。

などの話を聞きながら、TVなどで見るたくさんの歌手・芸能人の方々と共に先輩のご冥福をお祈りして参りました。

”戦争を風化してはいけません“

（お名前をご連絡下さい）

12期　仁木三郎

とどの実会幹事の皆様、お役目御苦労様です。本年は終戦から数えて六十年に達しました。昭和二十年八月十五日、私なりにその日に思いを寄せてみると・・・。

樺太とロシヤとの国境に程近い山林の小学校、その校庭に老若男女、殆んどの村民が集まっていました。小生も両親と共にその校庭に出向いていました。そして正午、その放送は始まりました。それを耳にした多くの大人達が一斉に泣き伏したのでした。その光景を不思議な思いで見入っていた自分をいまでも鮮明に記憶しています。あれが玉音放送であったことは後年理解するのですが。それから一週間もすぎた頃でしょうか・・・。

ロシヤ軍の侵攻が村内に報知されました。その時から村民の脱出劇が始まったのでした。しかし十八才以上の男子は役場の指令で足止めされました。いわゆるシベリヤ送りになったのです。（この辺は私の記憶の非ずして母から聞かされしことが記憶に残っているということです ネ）こうしてカラフトを脱出した母子五人は、母の実家である北見に何とかたどりついたのでした。

こうして小生の北見時代が始まった訳ですが何せ昭和二十年代です。食うものにしても着るものにしても、これとして好い記憶が残る世情ではありませんでした。しかし高校卒業までの十一年六ヶ月間の北見生活に於いて小生は数多くの心の友を得ました。そののちの我が人生に彼ら友の存在が精神的財産として今日に至っているは自明の理であります。それ故母校の同窓会・同期会にはできる限り参加してきました。今後におきましても五体万足な間は参加につとめる積りです。（戦後六十年ということで我が人生の一端を垣間見たのですが御一読下されば幸甚、そのの ちは破棄処分にして下さい。）

以上

私は昭和8年4月野付牛中学に入学、昭和13年3月卒業の12期生です。

我々12期生では同期生の投稿による会報を年に1回発行し、同期生に配布しています。会報は老境に入った同期生を結ぶ絆として、同期生間の親近感と連帯感を深くすることに役立っています。次の一文は私の会報に投稿した一部です。

我々の多感な青春時代は戦争に翻弄された時代と言える。昭和16年12月太平洋戦争に突入し、我々同期生は戦争の最も激しい時期に成人を迎え、ほとんど全員が兵役に服し、苛酷な戦争に参戦、13名が帰らぬ人となっている。

私も戦争中、中国で軍務に服し、再三危機に遭遇したが、終戦後の21年5月無事帰国した。入学時105名、卒業時71名であった同期生は卒業後65年の長い風雪に堪え、現在15名である。

私は当時の網走本線で5年間通学したが、1年生の時には上常呂4名、訓子府1名、置戸5名の10名であったが現在は上常呂から通学した私1名である。

時の流れと竹馬の友を失った寂寥感と80路の険しさを痛感している。

年令順による祝には還暦（60才）、古希（70才）、喜寿（77才）、傘寿（80才）、米寿（88才）、卒寿（90才）、白寿（99才）、茶寿（108才）、皇寿（111才）、珍寿（112才）がある。

私は傘寿を通り越し、米寿に向かっている。私の人生をトラック競技でいうならば第3コーナーを回りホームストレッチを走りゴール目前、人生の終着駅に近付いているが、私は気力、体力ともに充実しているので、今後も健康管理に留意し、米寿を目指して走り続ける決意である。

2005年5月17日

『あの日に戻って』

37期同期会IN東京　杉本　勝征

第2回目となる今回は前回の反省を踏まえ”同期生が大勢集まり交流を図る、現役も居ることから翌朝仕事に行ける場所とし、会費も抑えたい。美食旅行は次回小グループで。”箱根湯本温泉「天成園」とし、東京周辺居住者60名に案内を出し、14名が小田急・新幹線・車で11月26日（土）夕刻に参集した。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

内容はさておき一人が持参した卒業時の小冊子より”生徒会活動を振りかえって”と題する本谷勝利の文章一部を紹介しよう。

本校の生徒会活動は年々、活発化しつつあるが、今年度の生徒会活動は二宮会長の最大の構想は”校舎内の清掃・美化”であったが、何も具体化する事ができなかった。一学期の終り頃、校舎内の清掃・美化を果たすためと、乱れた風紀を正すために週番制についての意見が執行部内で話し合われ、他校を視察したが、実現する事が・・・・・・・。

これまでの文化祭の欠点をなくすために”仮装のテーマ設定、演劇三学年連合展示・発表会”を提案し・・・・生徒会活動が活発になるには何よりも全校生徒の生徒会活動に対する関心と協力が必要である事は長い生徒会の流れの中で分かる事である。

第十四期生徒会役員名簿

会長	二宮　攻一(三の七)	文化総務	藤瀬　純子(三の一)	
副会長	杉本　勝征(三の三)	〃	浅井　帰一(三の六)	
〃	本谷　勝利(三の七)	運動総務	寺本　考昭(三の四)	
企画総務	平岡　嘉一(三の七)	〃	村越　勝義(三の三)	
〃	大東　勲(三の四)	福祉総務	黒河　秀子(三の一)	
財務総務	加藤　健一(三の八)	〃	糸　隆茂(三の七)	
〃	阿部　輝昭(三の五)			以上十三人

47期　安田正樹

47期の旧3組の有志を中心に数年前から毎年1回の温泉旅行に出かけています。卒業30周年記念旅行がきっかけでした。これまで箱根湯本、伊豆伊東、水上、川治の各温泉地を巡り歩き、昨秋は蔵王遠刈田へ。以下はその折のダイジェストです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

11月某日午前8時、東京駅集合。

遠方参加の朝田さん（北見）、森さん（札幌）を含め、全10名揃ったかと思いきや、Pさんから「遅刻！」とのTEL。彼女を置き去りにして新幹線に。車中で既にパワーは全開（特に女子組は）、瞬く間に仙台着。10人乗りレンタカーにて観光開始、いざ松島へ。移動の間も笑いは絶えず。昼食は当然に牡蠣を選択、大いに美味。定番通りに瑞巌寺拝観、松島湾遊覧。1名船酔は想定外。さて、今宵の宿の遠刈田温泉三治郎へ。Pさん合流、ひと安心。良い風呂、良い酒、良い肴。宴は否が応でも盛り上がる、遥か昔のあの修学旅行を思い出しますねえ。2次会も延々と・・・。

翌日午前は仙台市内観光。広瀬川、青葉城址、瑞鳳殿、大崎八幡etc。昼は老舗牛タン店へ。鬼平ならば「む、うまい」。土産も買い揃え、帰りの車中は缶ビールと笹かまをお供に「さて来年はどこに行こうか」。とか言ってる間に無事帰京。お疲れ様。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

北見北斗という場所で出会い、少年少女を脱皮しようとする微妙な時代を共にした仲間との交友は、本当にかけがえのないもの。会えばいつでもあの日に戻って語り合える。このつながりがいつまでもと願いつつ、次回の旅を心待ちにしています（幹事長の生駒さん、旅のプロの長野さん、企画よろしく。山中さん、福村さん、川久保さん、松田さん、またね。朝田さん、森さん、待ってるよ。Pさん、今度はちゃんとね）。